

県内地域史 研究会紹介

(四)

別府史談会

- ① 会 名 別府史談会
- ② 事務局所在地 別府市緑丘町四組 入江秀利方
- ③ 発足年月日 昭和六十二年十二月
- ④ 会 長 名 和田秀夫
- ⑤ 会 員 数 一八九名(平成七年十二月現在)
- ⑥ 会誌・年発行回数 『別府史談』 年一回
- ⑦ 最近数字の主な目次

〔第五号〕

「明治維新と大分県」佐藤節、「言葉と地名―鶴見・石垣原をめぐって―」富来隆、「別府の行政事情―明治前期―」大野保治、「日露戦争当時の別府町の稲作指導」小玉洋美、「地獄の噴気を利用した食物」藤内喜六、「豊後明礬考(Ⅰ)」

「明礬会所設立まで」入江秀利、「小倉藩人畜改帳について」安部和也、「別府の市街における盃状穴」佐藤勉、「石垣原合戦の史跡について」矢島嗣久、「『ふいが城』―発掘記録より―」土屋公照、「鉄輪方面修学旅行の記―明治三八年―」河野照之、「照湯に関する史料―森藩史料より―」佐藤暁、「別府温泉繁昌記(二)」菊池幽芳、「別府の伝説―悲しい女の性―」堀藤吉郎

〔第六号〕

「別府のタタラ文化―言葉と地名―」富来隆、「別府の行政事情―明治前期―」大野保治、「大友氏時について」矢島嗣久、「元祿の符器と古語への夢」日名子洋一、「別府の歌物語り」後藤武夫、「『石垣原合戦日記』―古屋家文書―」安部和也、「豊後明礬考(Ⅱ)―天保改革と明礬会所―」入江秀利、「梨子地桐鳳凰中高蒔絵弓を得て」相良範子、「住吉様のおまつり」入江秀利、「別府温泉繁昌記(三)」菊池幽芳、「別府の伝説 聖の念力」堀藤吉郎、「史料 豊後国速見郡村誌(抄)」

〔第七号〕

「トビと太陽とエビス様」富来隆、「寛永キリシタン塔」別府のキリシタン塔」藤内喜六、「別府の行政事情 明治後期(一)」大野保治、「大谷光瑞鏡如上人について」矢島嗣久、「横灘文人庄屋列伝 幕末の庄屋たち」入江秀利、「別府市美術館と名作の周辺」江藤明、「天明大飢饉の口伝について」相良範子、「井上馨侯の別府潜伏とその前後」長谷部吉貞、「多賀神社のこと」土屋公照、「朝見八幡様おまつり」入江秀利、「盆踊口説『与十秀浦心中』」佐藤勉、「別府の伝説」一靈泉、靈湯」堀藤吉郎、「別府温泉繁昌記(四)」菊池幽芳、「史料」豊国紀行」貝原益軒、「西遊雜記」古川古松軒

〔第八号〕

「別府の米騒動」三重野勝人、「中浜地蔵の造立」安部和也、「鍛冶文化の変容」富来隆、「別府の行政事情」明治後期(II)」大野保治、「別府のキリシタン塔」藤内喜六、「高岸源太郎と料亭『なるみ』」矢島嗣久、「鶴見村大庄屋直江氏について」後藤武夫、「エンヤンドッサーの掛け声が消え

た」入江秀利、「八幡竈門神社のまつり」土屋公照、「豊後明鑿開発の史料」佐藤暁、「市内探訪に参加して」国広清光、「別府温泉繁昌記(五)」菊池幽芳、「別府の伝説」怪力・鬼」堀藤吉郎、「史料」菫海漁談」脇蘭室、「『温泉めぐり』蝶斎起友」佐藤勉

〔第九号〕

「佐藤慶太郎と別府」江藤明、「よみがえれ公会堂」星野純朗・大塚俊英、「鼠の岩窟と土蜘蛛」富来隆、「別府の行政事情」大野保治、「間宮英宗の来別に関して」佐藤嘉一、「第一回国勢調査と別府」小玉洋美、「大友持直について」矢島嗣久、「赤米と薩摩芋」入江秀利、「別府の秋葉神社考」安部和也、「立石天満宮の『すぼふり』」伊藤英俊、「別府の歴史散歩 北石垣の西域コース」日名子洋一、「別府の伝説 動物アラカルト」堀藤吉郎、「別府温泉繁昌記(終)」菊池幽芳、「史料 石垣原の戦闘(一)」在郷軍人会

⑧ 活動状況

昭和六十二年十二月に発足し、今年(平成八)で十周年を迎える。別府市の急激な観光都市化のために、郷土の歴史的景観

や記録が著しく損なわれつつある。史談会は住民が郷土の成り立ちを尋ね、その風土をこよなく愛し、その保全に努め、地方の個性豊かな特色ある発展に寄与することに目的を置いていた。

会の運営は、富来隆、中野幡能氏を特別会員にいただき指導を受け、理事会、事務局が会や行事を運営している。

活動は、市内史蹟探訪会(六月)市外史蹟探訪会(十月)を催して、当地の古老や文化財担当者のご指導を得て、研修会とフィールドワークを実施してきた。総会(十一月)では、広く学識者を講師に招いて講演会を実施している。また、公民館等の要請があれば、会員のなかより古文書解説講座や、郷土史講座を担当して、市民の啓発に努めている。

会員の研究は、郷土の歴史はもとより、民間伝承、伝説、昔話、里謡、民間信仰、寺社祠の縁起など広範にわたり、その成果は会誌「別府史談」に投稿して発表の機会を与えている。

(事務局長 入江秀利)